

く夏日のやうには、はこすべからずくとつゞけかきたれば、三日三日まではねんじゐるほどに、大かたたゆべきやうもなければ、左右の手にてしりをかゝへて、いかにせんくとよぢりすぢりするほどに、ものもおぼえずしてありけるとか、

〔鋸屑譚〕搥囊抄、輕刑屎を遍身に塗りて、山野に追ひ放つ律あり、蓋中臣祓屎戸の事に似たり、

〔陰德太平記〕五、大内勢取圍銀山櫻尾兩城、附次休藏主事

一休是ヲ見テ、御邊休ハ魚ヲ又本ノ魚ト成セリ、是劉綱ガ盤中ニ唾シテ、鯨魚トナシ、手段ヲ用給、吾ハ又此魚ヲ佛トナシヌベシトテ、裳ヲ高ク掲ゲテ、座上ニ糞ヲシ給テ、方法ハ歸一、食ハ盡ク歸糞、サレバ三世ノ諸佛ハ、屎中ノ蟲ナレバ、這裏ニ秘在セリ、

〔安齋隨筆〕前編九、一休和尚之歌

世の中はくうてはこして寐ておきてきて其後は死ぬるばかりぞ一休物語に見へたり、はこす也、しのげこと云也、又これをまるも云ふ、丸く細長きゆへなるべし、

〔倭名類聚抄〕三、垂、屁、四聲字苑云、屁糞察、匹鼻反、三字通也、楊氏漢語抄云、放屁、和名倍比流、下部出氣也、

〔箋注倭名類聚抄〕二、垂、按、屁糞同、見廣韻察同、屁、見廣韻皆同字異體、非通用、源君云、三字通、非是、按倍、以放屁之音響名之、比流與放糞呼久曾比流同、略按類篇引字林云、糞下出氣也、與此略同、曲

直瀬本、下總本案作察、那波本同、與集韻合、按、屁糞並以比費得聲案亦當以未爲聲從、示恐非是、

〔類聚名義抄〕七、屁、或糞正、匹鼻反、へヒル、へ、放屁へヒル

〔伊呂波字類抄〕人部、屁、疵、糞へヒル察、放屁、已上同

〔增補下學集〕上二、支體屁、下部出氣也

〔書言字考節用集〕五、肢體放屁、順和名屁、出氣也察、糞糞

〔貞丈雜記〕十五、一屁をひると云ふ事を、古代はならすと、いひし也、古今著聞集、宇治拾遺物語など